

第3章 ビジョンの基本的考え方

1. 目指す姿

第2期プランでは、「市民全員がデジタル技術を活用でき、社会全体の DX を進めることにより、誰もが、どこからでも利便性を享受できる『スマートシティたかまつ』の実現」を基本方針に掲げ、各種取組を推進してきました。また、同プランでは、令和 12 年頃に実現するまちの姿として提示した、「フリーアドレスシティたかまつ（FACT）」をコンセプトとして、時間や場所の制約から解放され、デジタルをツールに「ひと」と「ひと」がつながることにより、人間らしく生活するために必要な出会いや交流を生み出すまちを目指しています。

令和 6 年度から新たにスタートした「第 7 次高松市総合計画」では、「人がつどい 未来に躍動する 世界都市・高松」を目指すべき都市像として掲げ、市民だけでなく、本市を訪れる人、本市と関わりのある人、それぞれが心地よさを感じられるまちを目指すこととし、人口減少、少子・超高齢社会においても、将来にわたり持続可能なまちづくりを基本的な方針の一つとしています。

本ビジョンの目指す姿は、「フリーアドレスシティたかまつ（FACT）」と、最上位計画である「第 7 次高松市総合計画」の趣旨を踏まえ、以下のとおりとします。

いつでも、どこでも、誰でも快適に過ごせる、持続的に成長するまち「スマートシティたかまつ」

図表 3-1 スマートシティたかまつ全体像



2. 基本方針

本ビジョンの目指す姿を実現するため、以下に示す基本方針に沿って、取組を推進します。

（1）課題やニーズの的確な把握

人口減少、少子・超高齢社会が急速に進展する中、限られた財源と人的資源を有効に活用し、行政サービスの維持・向上を図りながら、本ビジョンで目指す持続可能なスマートシティを実現するためには、複雑化・高度化する地域課題や多様化する市民ニーズを的確に把握する必要があります。

地域の実情や市民ニーズに即した施策の展開に当たっては、多角的なデータ収集・分析を行い、市民を始め関係者と継続的なコミュニケーションを図りながら、問題意識を共有する等、分野横断的な視点での課題解決に向けた取組を目指します。

（2）変革意識と新しい発想でチャレンジ

社会情勢の急速な変化に対応し、新しい価値を創造していくためには、スピード感を持って、新しい手法やアイデアを積極的に取り入れることができる職員の育成と組織体制の構築が重要です。

複雑化・高度化する地域課題の本質や多様化する市民ニーズと向き合い、先入観や従来の価値観にとらわれない柔軟な発想と、「トライ&エラー」の考え方で何事にもチャレンジし、多様な意見を尊重しながら、市民目線による効率的で質の高い行政サービスの提供と業務効率化による職員の負担軽減に努めます。

また、「トライ&エラー」の考え方を支える職員の意識改革に向け、DX 人材に求められるマインドセットやリテラシーを持ち、変革意識を促進する人材の育成と、それらを尊重できる組織風土の醸成を目指します。

（3）持続可能でスマートな社会を追求

本市が抱える様々な課題に対して、ICT 等の新しい技術を活用しつつ、社会全体の最適化が図られる持続可能なまちにするためには、地域住民のみならず、国や香川県、近隣自治体等の行政機関、企業や大学等の多様な主体とこれまで以上に連携・協働して取り組むことが重要です。

次世代の都市生活を形成する最先端技術の導入等、デジタル技術を最大限に活用したスマートな社会の構築、地域全体におけるデジタル人材の育成、ICT 関連企業の集積等ネットワーク強化による地域経済の活性化の取組を継続的に推進し、子どもから高齢者まで全ての市民と本市を訪れる人が快適に過ごせるまちを目指します。

3. 施策体系

本ビジョンのアクションプランにおける施策は、目指す姿・基本方針を踏まえ、次に示す施策体系に沿って展開を図ります。（アクションプランは別途策定）

（１）くらしの DX ～デジタルでつながる快適なくらし～

人口減少、少子・超高齢化の進行等により、地域課題や市民ニーズが多様化・複雑化してきており、それらに対応する生活サービスの提供が求められています。

子育て、福祉・医療、健康、教育、防災、交通、まちづくり等、日常生活に関わるあらゆる分野で、全ての市民と本市を訪れる人が、日常的に、意識することなくデジタル技術やデータを活用し、持続可能な地域社会の中で、安全・安心に、自分らしく快適に過ごすことのできる「くらしの DX」を推進します。

（２）しごとの DX ～誰もが活躍できる魅力あるまち～

人口動態の変化による人手不足や人口減少による市場規模の縮小等、地域産業への影響が深刻化してきており、ビジネスにおける変革が求められています。

本市の地域資源や産業の特性を生かし、優位性をさらに磨き上げることを意識しながら、各産業分野においてデジタル技術やデータの利活用により新たな価値の創出を図るとともに、自然環境に配慮した経済活動へのデジタル技術の活用等、地域経済の持続的な発展に向けて、多様な主体と連携・協働しながら挑戦する「しごとの DX」を推進します。

（３）行政の DX ～市民目線によるスマートな行政～

厳しい財政状況の中、将来に渡る市民サービスの維持向上や市民目線での行政サービスの利便性向上が求められています。

子どもから高齢者まで全ての市民と本市を訪れる人が快適に過ごせるまち「スマートシティたかまつ」の実現に向けて、市民一人一人に寄り合い、多様なニーズやライフスタイルに合ったきめ細やかな利便性の高いサービス提供に基づく行政運営に努めます。また、産学民官の多様な主体との連携の下で、時間や場所にとらわれずに行政サービスが最適な形で受けられ、必要なサービスが必要な人に届く、市民本位の「行政の DX」を推進します。

（４）人材育成と基盤強化 ～持続可能な社会の形成～

人口減少、少子・超高齢社会が進行する中、複雑化・高度化する地域課題に効率的・効果的に対応するためには、デジタル技術を活用できる人材の育成や環境の整備が求められています。

効率的な行政運営と質の高いサービスの提供を実現できるよう、庁内における人材育成や組織風土の変革等を通じて、組織横断的な DX の推進に努めます。また、様々な地域課題の解決に向けて、市民を中心とした多様な主体が市政に参画・協働できる機会を創出することにより、本市全体の IT リテラシー向上とデータの利活用によるまちづくりの機運醸成を図り、持続的に成長することができる体制の強化に取り組みます。

※この施策で示す、**DX**とは？

デジタル技術等の戦略的活用により、庁内における職員の変革を促進し、質の高い行政サービスを提供することで、市民生活の質の向上や地域経済の活性化等、本市全体の価値を持続的に高めることを指します。

4. 推進体制

(1) 庁内体制

最高情報統括責任者を中心とする高松市 ICT 推進会議において、総合的に取組を推進するとともに、各取組項目は、「第7次高松市総合計画」のまちづくりプランに組み入れる等、計画的かつ円滑に実施できる体制を整えます。

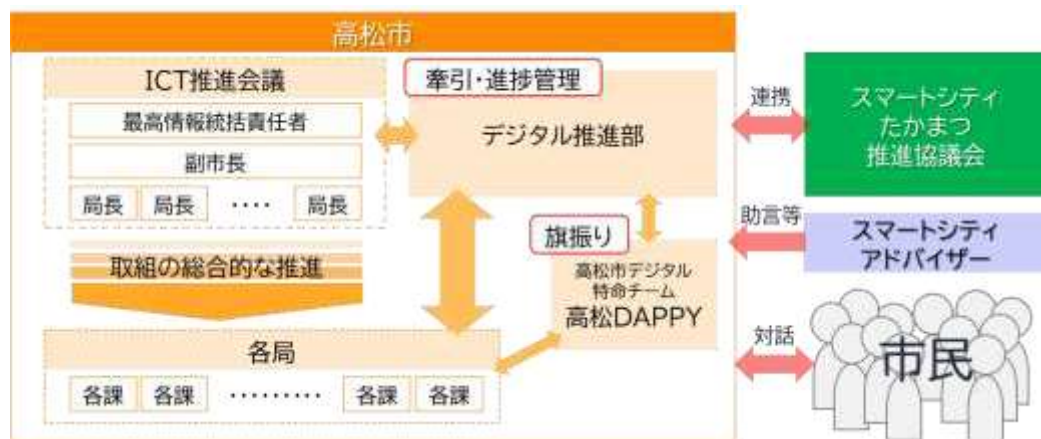
また、本市全体のスマートシティやデジタル化に向けて、デジタル推進部や高松市デジタル特命チーム（愛称 高松 DAPPY）を先導役として、前例や組織の縦割りにとらわれず、より横断的な取組を推進します。

(2) 多様な主体との連携・協働

基本方針に定める市民ニーズや地域課題の的確な把握のため、市民との対話・協議を重ねることで、「暮らし」、「しごと」、「行政」の課題を把握します。

また、スマートシティたかまつ推進協議会は、産学民官の多様な主体の連携の場として、ビジョンの推進に重要な役割を担うことから、更なる連携強化を図ります。併せて、本市スマートシティアドバイザーからの専門的意見やアドバイスを参考にしながら推進していきます。

図表 3-2 推進体制図



(3) 地域課題解決プロジェクト

これまで、本市のスマートシティたかまつ推進協議会への働きかけが不十分であることや推進主体が不明確であること等の、同協議会運営委員会からの御意見を踏まえ、従来の手法に加え、スマートシティたかまつ推進協議会との連携による本市の地域課題解決に向けた課題提示型のプロジェクトを新たに開始します。

図表 3-3 プロジェクト実施イメージ



5. 進行管理

「アクションプラン」で掲げる取組項目を着実に推進していくためには、KPI 等明確な目標設定と具体的な行動計画のもと、定期的な進行管理と状況に応じた臨機応変な対応に努め、取組の評価と新たな課題への迅速な対応を行っていくことが重要です。

（１） 庁内体制による総点検

施策の所管部署において、PDCA サイクルと OODA ループの考え方に基づき、取組項目について点検・評価を行います。

なお、高松市 ICT 推進会議において、その進行状況を毎年度報告し、取組の効果検証や見直しの必要性について、広く意見を聴取しながら、適切な進行管理を行います。

（２） 柔軟かつ迅速な進行管理

デジタル技術の急速な進展等本市を取り巻く社会環境の変化に対し、柔軟かつ迅速に対応するため、状況に応じて取組項目を随時見直します。

図表 3-4 PDCA サイクルと OODA ループ



PDCA サイクルは、サイクルをただ回すだけでなく、改善を通して、徐々にレベルアップを図っていくことがポイントです。この一連の循環を繰り返すことで成長を継続し、より大きな成功につなげていきます。



OODA ループは、変化の速い環境に適応しやすい意思決定のやり方。きちんとした計画に時間をかけすぎず、ループを高速でまわしていくことで変化に対応します。